



JABの活動

世界につながる確かな信頼

社会に安全・安心を

Accreditation - bridge to global confidence



公益財団法人

日本適合性認定協会
Japan Accreditation Board

人々の安全・安心な暮らしのために

■ 世界共通の『ものさし』で人々の安全・安心な暮らしを支える

人が快適な社会生活を営むためには、何らかの取り決め(=ルール)が必要です。家族、学校、会社、地域、都道府県、国にはそれぞれにルールがあります。現在のグローバル社会においては、国際的に共通なルールが必要となっています。

例えば、重さや長さなどのものさし(単位)が世界中で統一されれば、ものづくりも効率的に行われます。また、「作り手が品質の安定した製品・サービスを提供しているか」を確認するものさしがあれば、受け手である消費者は、品質の安定した製品・サービスを受け取ることができます。

このように、国際的な共通ルールの支えがあれば、世界中の人々の生活において安心の拠りどころとなり、製品やサービスの品質や環境に対する企業の取り組みを信頼につなげることができます。

国際共通ルールを作る団体のひとつに「ISO」があります。ISOで作られたルールは、世界共通のものさしになります。

もっと 知ろう

「適合性評価」って、何?

ルールに基づいて組織(企業など)が提供する製品、サービス、試験、検査などを評価することを「適合性評価」と呼んでいます。この適合性評価が行われている分野には、以下のようなものがあります。

- 組織(企業など)が方針や目標を達成するために適切に運営される仕組みをもっていることを証明する「**マネジメントシステム認証**」
- 溶接技能者など、特定の力量を求められる仕事をする人が技量・適格性をもっていることを証明する「**要員認証**」
- 製品やサービスが特定の製品規格を満たしているかを証明する「**製品認証**」
- 製品やその原材料などの特性を決める「**試験**」
- 製品やその原材料、製造方法を調査し、適・不適を判断する「**検査**」



目次

JABの活動の仕組み	2
JABの活動紹介	4
マネジメントシステムについて	6
マネジメントシステム認証制度とは	6
品質マネジメントシステム(ISO 9001)について	7
環境マネジメントシステム(ISO 14001)について	7
食品安全マネジメントシステム(ISO 22000、FSSC 22000)について	8
情報セキュリティマネジメントシステム(ISO/IEC 27001)について	9
エネルギーマネジメントシステム(ISO 50001)について	9
労働安全衛生マネジメントシステム(OHSAS 18001)について	9
要員認証について	10

「適合性評価」と「JAB」があります。

■ 世界共通の「ものさし」は正しく使われているか

定規を曲げた状態では寸法がきちんと測れないように、ものさしは一定の手順に沿って正しく使われなければ、その判断結果が信頼できるものとはなりません。

統一されたものさしが手順どおりに使われているかどうかは、ものさしで測る側、測ってもらう側のいずれにも利害関係のない「第三者」が客観的に確認することで、公平で公正な判断ができます。

■ 第三者の目で判断—JABの役割

JABは世界共通のものさしが適正に使用されているか、審査によって評価・判断しています。

JABが評価・判断する対象は、適合性評価を実施している「マネジメントシステム認証機関」、「要員認証機関」、「製品認証機関」、「試験所・校正機関」、「検査機関」などです。

JABは上記の機関が、ものさしを適正に使用して業務を遂行しているかを審査して確認しています。審査の結果、能力が認められれば、「認定」します。

「JAB」とは

正式名称は、「公益財団法人 日本適合性認定協会」です。
JABのように認定を行う機関を「認定機関」と呼んでいます。



もっと
知ろう

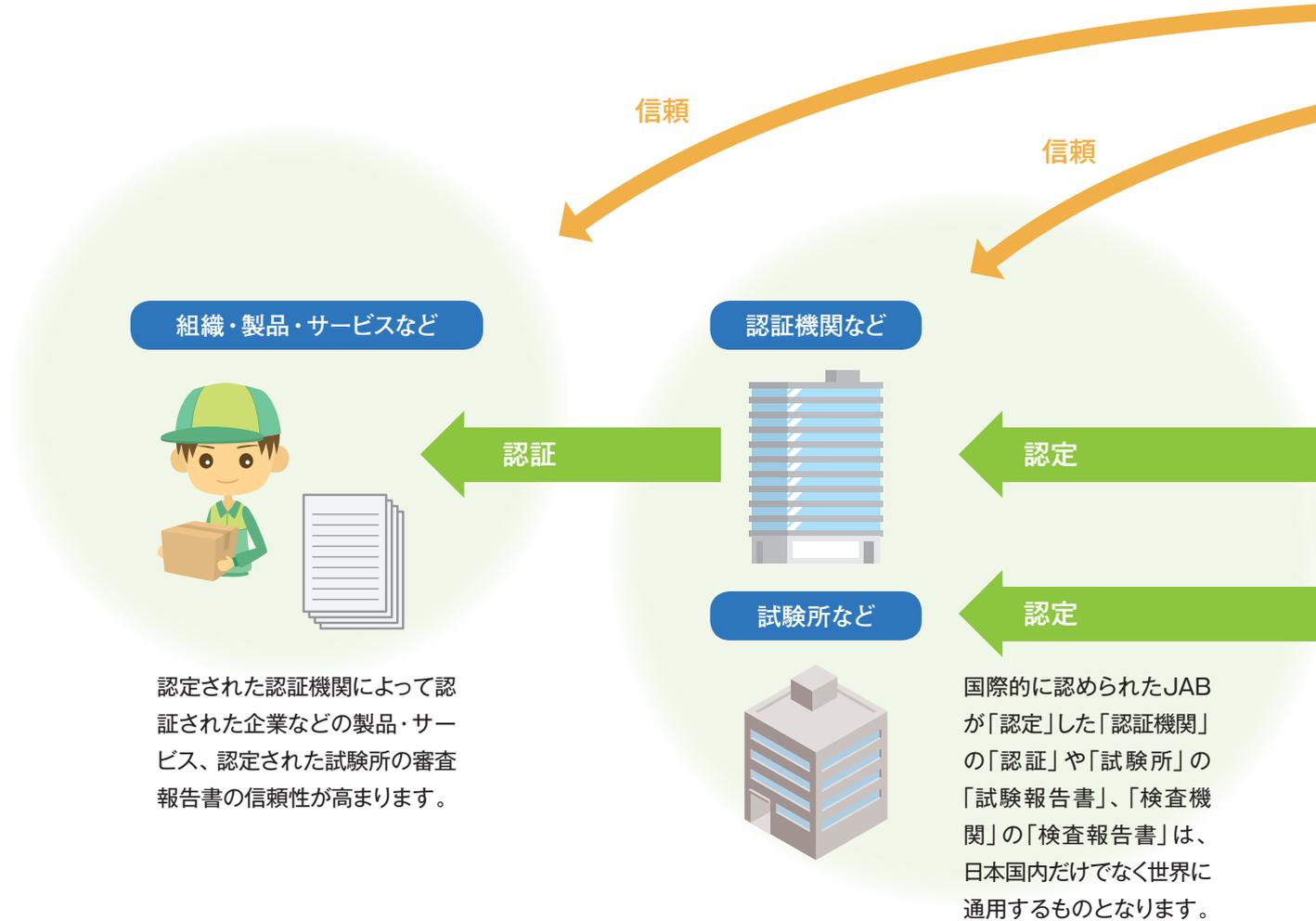
製品認証について	10
温室効果ガス妥当性確認・検証について	10
その他の規格について	11
試験所・校正機関について	12
臨床検査室について	14
検査機関について	15
標準物質生産者について	15
技能試験提供者について	16
MRA法に基づく国からの委託業務(指定調査事業)	16
JABインターネットウェブサイトを提供している情報/説明会・シンポジウムなどの実施	17

JABの活動の仕組み

JABの活動は社会の安全・安心に貢献しています。

■ 認定機関の活動

認定機関の活動の仕組みを下図に示しています。この仕組みによって、消費者は、日々の生活にかかわる様々な製品・サービスを安心して受け取ることができるようになります。



もっと
知ろう

審査の流れ(マネジメントシステム認証審査の例)



初めに、規格に書かれている約束事を守るための手順書類を備えているかを調べます。



次に、約束事が手順書類に沿って実践されているかを見るため、企業の活動現場(工場やオフィスなど)に審査員が直接入り、そこで働く人のインタビューを交えながら、作業や実施記録を確認していきます。



この確認作業の中で、約束どおり行われていなかった部分が見つければ、指摘します。

一般社会・消費者



これら適合性評価の仕組みが存在することで、一般社会・消費者は国際的に保証された製品・サービス・データを受け取ることができます。

信頼

日本唯一の総合的認定機関

国際的な認定機関の集まり



JAB

審査・評価



JABが「国際相互承認」されることで、仕組み全体の信頼性が向上します。

※制度の概要を図式化したものであり、全てを網羅しているわけではありません。

■ 世界に通用する「JABの認定」

JABはものさしが適正に使用されているかを審査し、判断していますが、これらを実施するJAB自身の能力は、どう証明されているのでしょうか。

JABも世界各国の認定機関から定期的に審査を受けています。認定機関に求められる事項を示した国際基準「ISO/IEC 17011」などを満たしており、JABは認定する力が備わっていることを証明されています。

認定機関同士で互いの認定業務の結果が同等であり、信頼できると認め合うことを「国際相互承認」といいます。



指摘事項を解決して…
認証取得!

※認証取得後も定期的に
審査を受けます。

JABの活動紹介

JABは、「認定」を軸にした様々な活動を行っています。

JABが認定している分野

JAB認定の対象		
分野(認定先)	評価する内容	使用する国際共通ルール (国際基準)
マネジメント システム認証機関	組織(企業など)の運営が、方針や目標を達成するために適切に実施されているかについて、その仕組みを証明する「マネジメントシステム認証機関」の能力	ISO/IEC 17021
要員認証機関	溶接技術者など、特定の力量を求められる仕事をする人が技量・適格性をもっていることを証明する「要員認証機関」の能力	ISO/IEC 17024
製品認証機関	製品やサービスが特定の製品規格を満たしているかを証明する「製品認証機関」の能力	ISO/IEC 17065
温室効果ガス妥当 性確認・検証機関	温室効果ガスの排出量・削減量の妥当性確認や検証を行う「温室効果ガス妥当性確認・検証機関」の能力	ISO 14065

JAB認定の対象		
分野(認定先)	評価する内容	使用する国際共通ルール (国際基準)
試験所・校正機関	試験や校正を実施する「試験所・校正機関」の能力	ISO/IEC 17025
臨床検査室	臨床検査を適切に行う「臨床検査室」の品質及び能力	ISO 15189
検査機関	製品やその原材料、製造法などを調査し、適・不適を判断する「検査機関」の能力	ISO/IEC 17020
標準物質生産者	測定のものさし(基準)になる均質かつ安定した物質を生産する「標準物質生産者」の能力	ISO Guide34
技能試験提供者	試験所間比較を実施し、参加した複数の試験所の成績を判定する「技能試験提供者」の能力	ISO/IEC 17043

MRA法に基づく国からの委託業務

JABはMRA法における指定調査機関として国から指定を受けています。国に代わって調査を実施し、その調査結果を国に通知するという業務を実施しています。

本業務の内容については、P16をご参照ください。

認定先が行う活動など

評価する内容	使用する共通ルール(規格)	詳細解説
組織のマネジメントシステム	ISO 9001、ISO 14001、 ISO 22000、FSSC 22000、 ISO/IEC 27001、ISO 50001 など	⇒P6
要員の力量	各種力量を規定した規格	⇒P10
製品(プロセス、サービスを含む)	製品規格	⇒P10
プロジェクトの妥当性検証プロセス	ISO 14064-1 ISO 14064-2	⇒P10

認定先が行う活動など

評価する内容	使用する共通ルール(規格)	詳細解説
サンプル	試験規格	⇒P12
検体	臨床検査法	⇒P14
製品、サービスなど	検査法	⇒P15
標準物質	標準物質生産方法 (製品規格、試験規格含む)	⇒P15
試験所、校正機関、臨床検査室などの測定能力	技能試験提供方法(試験規格含む)	⇒P16

■ その他のJABの活動

- ・技能試験の提供
- ・インターネットウェブサイトによる情報開示など
 - ▶ JABが認定した機関、試験所などの情報検索システム
 - ▶ JABが認定したマネジメントシステム認証機関によって認証された組織(企業など)の情報検索システム
 - ▶ 国際会議情報、国際相互承認状況、基準類の改定・発行など
 - ▶ 苦情などの受付
- ・適合性評価制度の普及・啓発を目的としたシンポジウムや説明会の開催
- ・新規認定プログラムに関する市場ニーズの調査、及び研究・開発
- ・認定機関間の国際相互承認の推進、維持
- ・内外関係機関などとの交流及び協力



マネジメントシステムについて

マネジメントシステムとは：組織（企業など）が設定した方針・目標を達成するために、

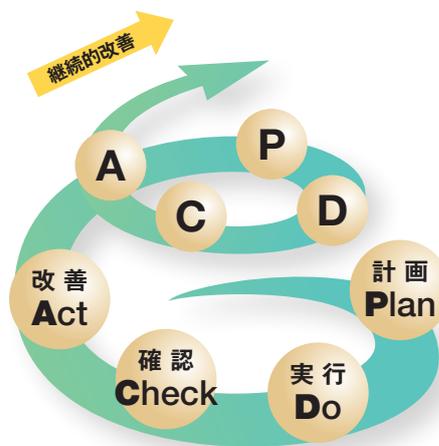
- ①どのように計画を立てるのか（Plan=計画）
- ②どんな組織体制（役割分担や指示命令系統など）で具体的に実行するのか（Do=実行）
- ③どのように作業プロセスを確認するのか（Check=確認）
- ④見直しや改善はどのように行うのか（Act=見直し、改善）

以上について適切に指揮し、管理する「仕組み」のことです。

下図では、組織における①②③④の流れ（計画から改善まで）を示しています。

Plan・Do・Check・Actの頭文字をとって「PDCAサイクル」と呼んでいます。

PDCAサイクル



マネジメントシステム認証制度とは

上記の「仕組み」が文書になっているものが「マネジメントシステム規格」です。

組織の活動内容が、マネジメントシステム規格に書かれている意図に沿っているか否かを、社会や消費者、顧客などに代わって第三者の立場であるマネジメントシステム認証機関が審査し、適合していれば、この組織を「認証」し、公表します。

これをマネジメントシステム認証制度と呼んでいます。

もっと 知ろう

組織がマネジメントシステム認証を取得するためには

- ①まず、マネジメントシステム規格を理解し、規格の意図に沿った仕組みを組織内に構築します。現在の仕事の流れが規格のどこにあてはまるか検討し、不足している仕組みを作っていきます。
- ②マネジメントシステムの種類、自組織の業種の審査ができる認証機関（本協会が認定した認定範囲や認証実績を参考に）を選びます。
- ③認証審査を受けます。認証審査では、組織のマネジメントシステムの構築状況について、規格の意図に沿っているかを審査していきます。適合していると認められれば、認証文書が発行されます。

品質マネジメントシステム(ISO 9001)について

ISO 9001とは、組織が、顧客や社会などが求めている品質を備えた製品やサービスを常に届けるための仕組みについて、ISOが定めた世界共通の規格です。

その仕組みをさらによくしながら顧客の満足度の一層の向上を目指すためには、どのような組織にしたらよいのか、責任分担をどうしたらよいのか、どのような方法で仕事をすればよいのかなどについて、定めています。

ISO 9001の特徴は、例えば「品質を常に維持向上して欲しい」といった社会・顧客が企業などに求めたいと思うことを実現するための仕組みや手順について、社会・顧客に代わって企業などに求めている点にあります。

環境マネジメントシステム(ISO 14001)について

組織を取り巻く地域的な環境から地球規模での環境を考えて、その保全や改善について検討し、策定された規格です。

環境に与える負荷をなるべく少なくしていくための一連の仕組み、すなわち環境にやさしい組織を目指しています。

ISO 14001には、組織が「環境方針」を公表し、それに基づく目標を達成するための計画を立て、その計画を実施するための組織体制や仕事の手順を決めて実行し、決めたことが着実に実行されているかを記録・監査などで点検し、経営者が責任をもってシステムを見直しながら継続的に改善することが書かれています。

マネジメントシステムの種類

- ISO 9001 (品質マネジメントシステム)
- ISO 14001 (環境マネジメントシステム)
- ISO 22000 (食品安全マネジメントシステム)
- ISO/IEC 27001 (情報セキュリティマネジメントシステム)
- ISO 50001 (エネルギーマネジメントシステム)

などがあります。



もっと
知ろう

食品安全マネジメントシステムについて

■ ISO 22000とは:

食品の安全確保は、従来から各国共通の最重要課題であり、一般消費者は安全・安心な食品を求めています。

しかしながら、原料生産者から消費者に至るまで、食品が経由する全ての段階(フードチェーン)において、健康への悪影響をもたらすものが混入する可能性があります。

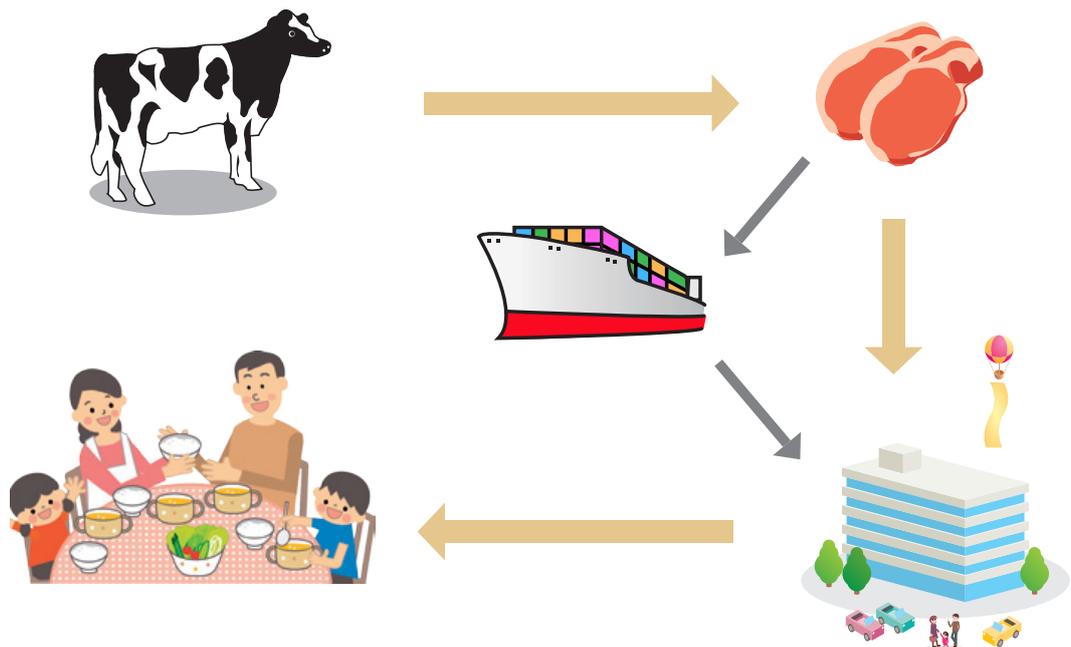
食品の安全確保のためには、フードチェーン全体が揃って努力する必要があります。

ISO 22000は、食品安全を目的とした初めての国際的なマネジメント規格です。食品の原料の段階から製品やサービスが消費者の手に届くまでの全プロセスのつながりについて、安全を保証するために作成されました。

■ FSSC 22000とは:

オランダに本拠地を置くFFSC (Foundation for Food Safety Certification)が開発・運営している食品安全システムに関する認証です。

これまでのISO 22000に基づく食品安全マネジメントシステムは、食品にかかわるあらゆる業種をカバーしていたため、表現が汎用的な面もありました。FSSC 22000は対象を食品製造業に特化し、食品製造業の食品安全への取り組みをさらに推進する仕組みとなっています。



情報セキュリティマネジメントシステム(ISO / IEC 27001)について

■ 情報の機密性などを維持：

情報社会の高度化とともに、組織のもつ情報は重要な「資産」として認識されるようになりました。一方、情報資産は常に災害、ハード/ソフトウェアのトラブル、不正アクセスによる改ざん、関係者による漏えいなど、様々な脅威にさらされています。これらの脅威から情報資産を適切に保護し、リスクに対する予防的対応を行うと同時に、情報を利用しやすくし、価値を高めることを視野に入れています。



エネルギーマネジメントシステム(ISO 50001)について

■ エネルギーの効率的利用を適切に把握・管理：

エネルギーをより効率的に利用し、地球温暖化防止や環境影響の低減、エネルギーコストの低減に貢献することを狙いとして、ISO 50001が作成されました。

電気やガスなどのエネルギー使用量を適切に把握・管理し、削減につなげる仕組みです。

環境にやさしい組織の仕組みを構築するISO 14001と類似していますが、ISO 50001ではエネルギー使用量に関して詳細なデータ分析などを実施し、組織の仕組みが有効に働き、組織のエネルギー使用量の削減が継続的な改善に結びついていることが特徴です。

労働安全衛生マネジメントシステム(OHSAS 18001)について

■ 健全な労働環境の確保：

組織で働くときには、事故や災害など労働災害発生の危険について、予めどのようなリスクがあるかを検証しておき、それらへの準備態勢を整えておくことで、健全な労働環境の確保につながります。労働安全衛生マネジメントシステムは、この労働災害のリスクを管理し、運営していくための仕組みを定めたものです。現在のリスクだけでなく、将来の安全衛生リスクについても管理し、改善をすることができます。

要員認証について

■ 要員認証とは:

例えば、溶接作業のように特定の力量が求められる仕事をする人(要員)について、その人が適格な力量をもっていることを第三者が証明すれば、その仕事の結果を利用する者にとって、信頼性を判断するうえで重要な情報となります。

このような人の力量がある特定の技術基準(溶接についてのJISなど)に照らして適格であることを第三者である認証機関が審査し、証明することを要員認証と呼んでいます。

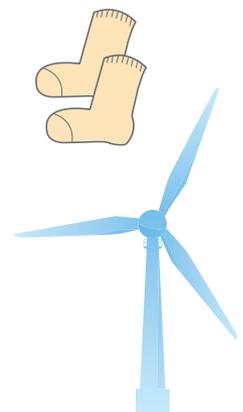
要員認証が国際的なルールや基準に準拠していれば、A国で力量を認められた人の仕事の結果がB国でも受け入れられることになります。

製品認証について

■ 製品認証とは:

製品認証とは、製品などの機能や品質を保証することを目的に、製品類が製品規格に書かれている性能を満たしているかについて、売る人でも買う人でもない第三者が証明する仕組みです。製品と同様、プロセスやサービスも認証の対象となります。

認証された製品には、認証マークが付くため、そのマークを見て購買者は安心して製品を買うことができます。JABが認定している製品認証の例として、自家発電装置/電気工作物の溶接/抗菌防臭加工繊維/マーケットリサーチサービス/風力発電装置などがあります。



温室効果ガス妥当性確認・検証について

■ 温室効果ガスとは:

温室効果ガス(Greenhouse Gas:GHG)とは、地球温暖化の引き金となるガス(二酸化炭素、メタン、フロンなど)のことで、その排出量の増加により、生態系の変化や異常気象の発生、健康への影響などが問題となっています。

この問題について、いくつかの対策がとられつつあります。そのひとつとして、組織ではCSR報告書や環境報告書などを通じて温室効果ガスの排出量や削減量を算定し、公表しています。

排出量報告が義務または自主的のいずれの場合であっても、組織が開示しているGHG排出量情報が信頼に足るものであるかどうかは重要です。

温室効果ガスの排出量や削減量・吸収量の妥当性確認や検証に関して、第三者が評価する仕組みがあります。

その他の規格について

ISO 9001はあらゆる分野に汎用的に適用されるものであるため、これを補完するために、各産業分野によっては、独自の特性を勘案し、ISO 9001に文章を追加したものを作成して発行しています。あくまでISO 9001がベースとなっており、ISO 9001と全く異なる別のものということではありません。

例えば、以下のようなものがあります。

[航空宇宙分野AS 9100(=JIS Q 9100)]

世界の航空機メーカー及び航空エンジンメーカーの殆どが参加して設立されたIAQG (International Aerospace Quality Group)によって、IAQS 9100が作成されました。IAQS 9100を世界の各地域で採用する形式をとり、日本では、AS 9100(=JIS Q 9100)が発行されています。



[医療機器分野ISO 13485(=JIS Q 13485)]

人命及び健康維持に直接かかわる医療機器を製造する組織には、ISO 9001を使うときに追加事項が必要であるとの国際的な認識に基づき、ISO 13485(=JIS Q 13485)が発行されました。



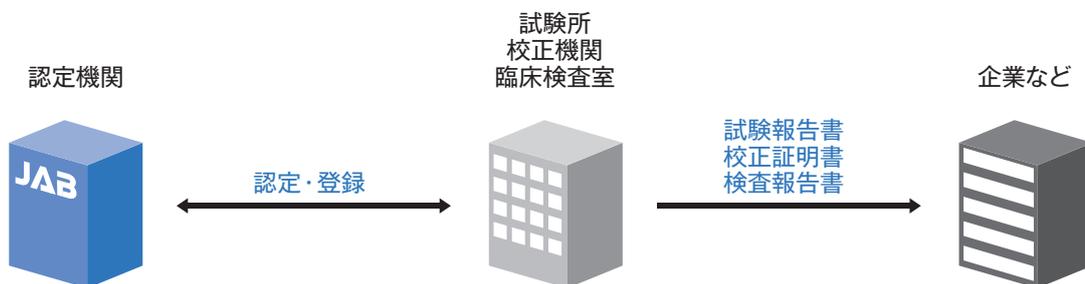
[電気通信機器分野(TL 9000)]

ISO 9001に、通信業界の追加事項を入れた規格がTL 9000です。通信プロバイダ及び電気通信機器製造業界を主たる構成メンバーとする、QuEST Forum (Quality Excellence for Suppliers of Telecommunications)が開発、管理しています。



試験所・校正機関について

試験所認定制度とJABの機能



■ 試験所とは:

私達の周りにはいろいろな製品や薬品、原材料などがあります。これらの多くは決まった方法で「試験」が行われています。また、環境汚染を調べるのも「試験」の一種です。このように「試験」は私達が安全で安心して生活するために利用されています。このような試験を行うところを「試験所」と呼びます。

試験所の試験結果は、様々な場面で重要な役割を果たしています。例えば、

- ・メーカーの製造工程の中で、製品が設計どおりに作られているか試験し、欠陥品を出荷しないようにします。
- ・地域の環境汚染を試験し、汚染防止、あるいは改善に役立てられています。
- ・メーカーで作られた製品が消費者にとって安全かどうか調べるために試験をする場合もあります。

試験所の出す結果は正確で信頼できるものでなければなりません。正確で信頼できる試験結果を出すためには、試験所は技術的能力があり、公平・公正である必要があります。

■ 試験所認定制度とは:

試験所認定制度は、試験所が目的の試験に関して能力があるかどうか、公平・公正であるかについて、国際基準「ISO/IEC 17025」によりその分野の専門家が評価し、認定する制度です。

もっと
知ろう

試験と検査はどう違う?

「試験」と似ている言葉に「検査」があります。「試験」は前項にもあるように、決められた方法でもの特性をはかることです。一方、「検査」はこれらの試験結果をもとに何らかの判断を行うことまでを含んでいます。

判断の方法は、試験結果をもとに特定の規格に照合するものから、専門家が十分に培われた経験をもとに、目、耳、鼻など人間の五感を使って専門的判断をするものまで幅広くあります。

このように、「試験」と「検査」は区別されていますが、長年日本では、「試験」と呼ぶべき行為を「検査」と呼んできたこともあり、混同されがちです。

■ 校正機関とは：

試験や検査を行う際には、測定機器を使って、ものの重さや容積、硬さ、回転数、振動、釣合いなどをはかります。

これらの測定を行う機器の示す結果(数値など)を信頼できるものとするためには、機器の状態(精度・機能・動作)を定期的に確認する必要があります。この作業が「校正」であり、校正を行うところを「校正機関」と呼んでいます。

もっと 知ろう

試験所認定の始まり

オーストラリアにおいて、軍が調達する資材の量と種類が膨大になり、公的機関だけでは試験・検査ができなくなったことを契機に、国立研究機関の全面的な支援のもとで、1947年に民間の試験所認定機関が設立されました。

政府はこの認定機関に対し、民間の試験所の技術能力などを基準に照らして審査し、基準に適合している場合には認定するという業務を委託しました。この認定機関で認定された試験所については、公的試験所と同等とみなして資材調達に活用しました。

その後、イギリス、ニュージーランド、その他欧州諸国で同様の試験所認定の仕組みが導入されました。

もっと 知ろう

JABはどんな分野の試験所・校正機関を認定しているの？

主な分野は以下のとおりです。

■ 試験所

- ・電気試験
- ・機械・物理試験
- ・化学試験
- ・食品試験
- ・複合分野

■ 校正機関

- ・電磁気量(直流/低周波)
- ・電磁気量(ラジオ周波/マイクロ波)
- ・幾何学量
- ・力学量
- ・熱力学量
- ・時間及び周波数
- ・光学量



臨床検査室について

■ 臨床検査室の役割:

臨床検査（一般検査、血液学的検査、生化学的検査、免疫学的検査、微生物学的検査、病理学的検査など）を実施するところを「臨床検査室」といいます。

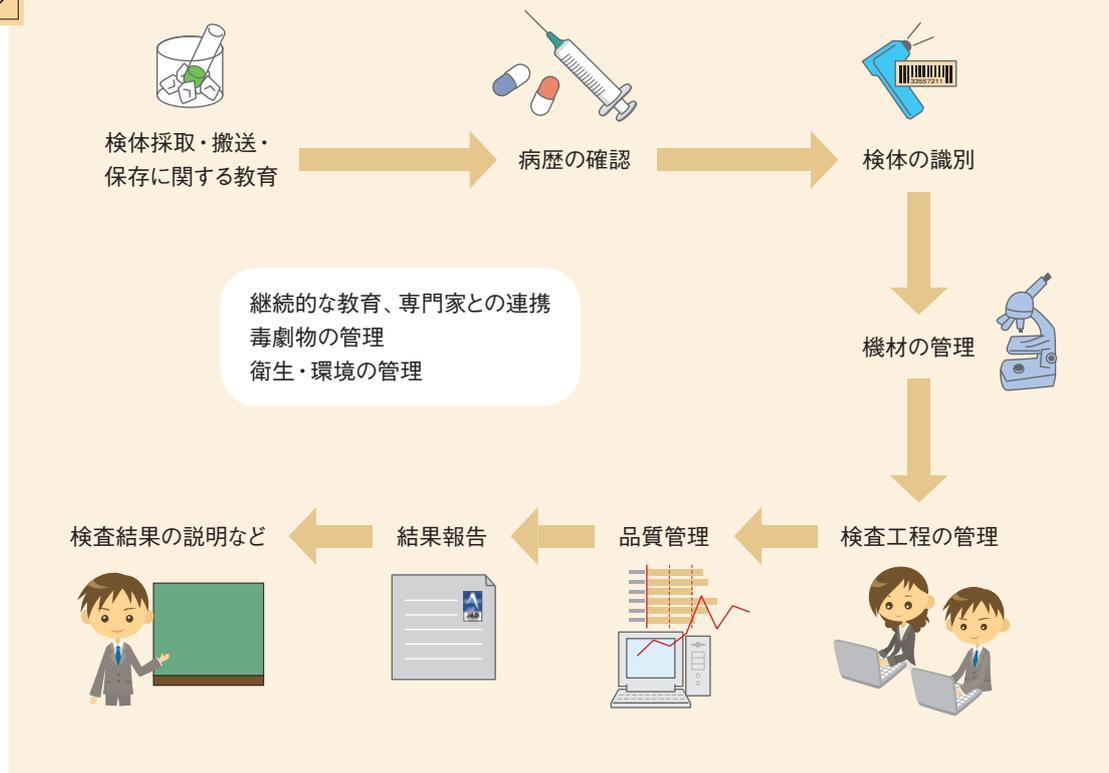
臨床検査の結果は、診断や治療方針の決定や予後推定に大きな影響をもち、私達の健康に深く関わっています。

従って、誤った検査結果が取り返しのつかない重大な障害を招かないよう、より良質な臨床検査を実施することが必要です。

臨床検査室の技術能力を国際規格「ISO 15189」に基づいて評価し、臨床検査を適切に行う能力を有していることを認定する制度が「臨床検査室認定制度」です。この認定制度は、医療の安全に貢献しています。

もっと
知ろう

認定された臨床検査室における検査の流れ（尿検査の例）



検査機関について

■ 検査機関：

検査とは、何らかの基準に照らし合わせて適・不適などを調べて判定することです。例えば、以下のような検査があります。

食品検査：

放射能試験、残留農薬試験、食品添加物試験などを行い、その結果を用いて判定し、食品の安全・安心に貢献します。

船積み前検査：

輸出の際、輸入国によっては一定の品質基準を設けています。予め輸出時に検査・証明を受けて輸入手続きを行っています。安全や環境面、使用に耐えるものかどうかなどの検査があり、これを船積み前検査と呼んでいます。

非破壊検査：

ものを壊さずに、内部・表面のキズや劣化の状況を調べ出す検査です。破壊しないことにより、廃棄物の減少や社会の安全に貢献しています。

目視検査：

製品表面のキズの有無の検査、キズがあった場合に、合否基準に照らして「キズ欠陥」か否かを確定しています。

このような検査を実施するところを検査機関といいます。

検査機関の能力を国際規格「ISO/IEC 17020」に基づいて評価し、能力を認める制度が「検査機関認定制度」です。

標準物質生産者について

測定には、寸法や重さを測ること以外にも、目に見えないものを調べることも含まれています。

しかし、液体や気体など見えないものの濃さなどを調べる際には、ものさしやはかりでは難しいので、見本(知りたい測定値の尺度となる物質)を使って比較するという方法で行います。

このような比較をするための見本が「標準物質」です。標準物質はいつも一定に作られていなければ、測定のたびに結果が異なり、意味がありません。従って、標準物質を作るところ(標準物質生産者と呼びます)には、安定して生産する能力が必要となります。

安定した標準物質を作る能力のある生産者であることを国際規格「ISO Guide34」に基づいて評価し、能力を認める制度を「標準物質生産者認定」といいます。

例えば、標準物質との精確な比較によって、有害物質などの濃度が分かり、消費者の安全・安心な暮らしに貢献します。

技能試験提供者について

試験所が出すデータは、世界中の貿易や専門的な研究分野で活用されており、国際的に通用することが必要となっています。

このため、適切な試験方法を検討したり、試験所内の体制を整備することは欠かせません。また、試験結果を常に他の試験所と比較し、差異を究明して適宜対応をとっていくことも必要です。

この試験所間比較を実施し、参加した試験所の成績を判定するところを「技能試験提供者」と呼んでいます。

技能試験提供者の能力を国際規格「ISO/IEC 17043」に基づいて評価し、能力を認める制度が「技能試験提供者認定制度」です。

適切な技能試験の提供によって、国際的な信頼性がさらに高まることが期待できます。

もっと
知ろう

技能試験と試験所認定

試験所認定を受ける前提として、以下については技能試験への参加が義務付けられています。

- ・試験所・校正機関
- ・臨床検査室

また、技能試験は、認定の取得又は維持のためだけでなく、試験所などの品質管理や改善に役立つことから、試験所などの信頼性を確保する手段のひとつとしても参加が推奨されます。

MRA法に基づく国からの委託業務（指定調査事業）

JABはMRA法における指定調査機関として、国から指定を受けています。国に代わって調査を実施し、その調査結果を国に通知するという業務です。

MRA法では、日本から外国への輸出品の適合性評価を行う事業を国外適合性評価事業として8種類に区分しています。

その中で、JABは、第一号事業<通信端末機器及び無線機器のR&TTE指令への適合性を評価する事業>と、第八号事業<通信端末機器及び無線機器のFCC規制への適合性を評価する事業>について指定を受けています。

この法律により、製品の輸入国は、輸入の際に輸出国で行われた適合性評価結果をそのまま受け入れることができます。輸入後に改めて試験などの適合性評価を行う必要がなくなり、輸出入が円滑に行われるというメリットがあります。

MRA法とは：

特定機器に係る適合性評価手続の結果の外国との相互承認の実施に関する法律（平成13年7月11日法律第111号）

JABインターネットウェブサイトで提供している情報

■ 認定・認証に関する最新情報を便利な検索システムで入手できます

主な内容は以下のとおりです。

- ・ JABが認定した機関、試験所など
- ・ JABが認定した認証機関によって認証・登録された組織（＝適合組織）
- ・ 適合組織に関する統計データ（都道府県別、認定範囲別など）

<JABインターネットウェブサイトトップページ>



<例：適合組織 検索画面>



■ マネジメントシステム認証機関の認定審査情報を公開しています

認定・認証制度が公平で信頼性のあることを示す一例として、JABでは、各認証機関の認定審査に関する情報を公開しています。主な公開内容は以下のとおりです。

- ・ 機関の特徴
- ・ 当該認定審査の目的
- ・ 審査所見概要
 - ▶ 当該認証機関が強化に取り組んでいる分野
 - ▶ 審査所見から審査結論を得た理由

説明会・シンポジウムなどの実施

適合性評価制度の理解促進と普及のために、随時、説明会やシンポジウムなどを実施しています。具体的な内容は、ウェブサイトの「注目のお知らせ」や「新着情報」欄で紹介しています。



JABのロゴ

Accreditation (認定)のAを基調とし、全体として日本的なイメージを醸し出しています。

三本の横線は、**組織(企業など)** **認定対象機関** **JAB** の相互協力を表しています。

基本色であるブルーは、信頼と発展を表しています。